

R4 年度 NITS 信州大学センター 事業報告書

目次

1.はじめに	1
2.令和4年度の事業一覧	2
3.令和4年度の研修事業の概要.....	4
3-1. 次代を担う中核教員養成研修	4
3-2. 教師の教育観と授業～省察的实践を通した教師の更新～	5
3-3. 「学級づくり・学校づくり ～チーム学校と新たな学級経営～」	6
3-4. へき地・小規模校の教育実践～個別最適な学びを実現する授業づくり～	7
3-5. マイスター教員研修	10
3-6. 教室の中での異文化理解 ～違いを認め尊重しあう社会を目指して	11
3-7. コミュニティ・スクール地域コーディネーター養成講座	13
3-8. 信州大学センター公開フォーラム 『教師が働きやすい学校に求められること ～国際的な視野から考える～ 』	25
4. 南信州サテライトキャンパスの利用	28
5. おわりに	31

1. はじめに

信州大学センターが開設されてから3年目の事業となった。コロナ禍において講座数を8件に精選し、長野県教育委員会および長野県総合教育センターとの連携を深めながら、ユーザーサイドに立った研修の在り方を検討しつつ予定された事業を無事に実施できた。実施した8事業のうち、3つが長野県教育委員会との共催事業であり、3事業が長野県総合教育センターとの連携講座として開講され、残り二つが信州大学センター（教職大学院）独自の研修講座である。いずれも参加者の満足度は高く、事業を積極的に継続していくエビデンスにもなっている。

また、昨年度末に設置された南信州サテライトキャンパス（飯田市立飯田東中学校内の空き教室をリノベーションしてつくったラーニングスペース）における研修活動として予想以上の利用者数を記録したことは、信州大学センターが地域の学校現場に開かれ、教職員にとっての自主的な研修の場を提供したことの成果を示すものとも言える。

以下、各事業概要と参加者のアンケート集計結果等を掲載して令和4年度事業の報告とする。

2. 令和4年度の事業一覧

事業計画および実施状況

※1 次世代育成期相当教員:経験20年程度以上の教員

※2 充実期相当教員:経験10年～20年程度の教員

No	研修(セミナー)名	内容	実施方法	日程	対象者	参加人数
1	次代を担う中核教員養成研修 (学びの改革支援課と信州大学センターの共催事業)	・ミドルリーダーシップに関する講演 ・希望研修(カリキュラム・マネジメント等) ・県外校に学校参観研修 ・夏季セミナー講演会 ・学校づくり実践研修 ・グループミーティング(毎月1回のWeb会議) ・学びの改革フォーラム ・各都市での研究発表等	併用	年間通して実施	各都市(15地区)から2名ずつの推薦を受け、県教育委員会・学びの改革支援課で決定した30名	30人
2	教師の教育観と授業～省察的实践を通じた教師の更新～ (長野県総合教育センターと信州大学センターの共催事業)	・講義1「信州の総合学習の理念と背景」 ・実践発表「子どもとともに更新し続ける教師」 ・講義2・演習「協働的同伴者としての教師のアプローチ」	集合	令和4年6月6日(月)	長野県内の充実期及び次世代育成期の教職員	県内教職員:26名/教職大学院生:9名
3	学校づくり・学級づくり～チーム学校と新たな学級経営～ (長野県総合教育センターと信州大学センターの共催事業)	・講義「特別に支援が必要な子どもをつつむ学級経営」 ・講義・演習「チーム学校と同僚性・協働体制づくり」	オンライン	令和4年8月1日(月)	長野県内の充実期及び次世代育成期の教職員	県内教職員:52名/教職大学院生:31名
4	へき地・小規模校の教育実践～個別最適化を実現する授業づくり～ (長野県総合教育センターと信州大学センターの共催事業)	・講義「少人数の良さを生かす授業づくり」 ・実践発表「小規模校での自律的な学びを目指して」 ・講義・演習「自由進度学習における教師の仕事」	オンライン	令和4年8月18日(木)	長野県内の充実期及び次世代育成期の教職員	県内教職員:25名/教職大学院生:25名
5	マイスター教員研修 (学びの改革支援課と信州大学センターの共催事業)	・「教職人生リフレクション」 ・「県内教育実践者による講演」 ・「リ・クリエーション(再創造)」	併用	令和4年8月10日(水)	対象は、次世代育成期相当の教員を中心に、再任用や充実期相当の教員等	60名
6	教室の中での異文化理解～違いを認め尊重しあう社会を目指して	・第1部:外国籍児童教育の視点から～講義&演習～ ・第2部:英語教育の視点から～講義&演習～	併用	令和4年8月19日(金)	小・中学校、高等学校および特別支援学校の教職員、教育委員会関係者(定員30名)	15名

7	コミュニティ・スクール地域 コーディネーター養成講座 (長野県教育委員会の後 援事業)	・第1回:上田市立北小学校、 上田市中央公民館(大会議 室)・・・地域講師によるクラブ 活動参観/上田市地域づくり 連続講座 etc. ・第2回:美麻小中学校およ びコミュニティースクール (CS)についての講義/総合学 習美麻市民科の参観 etc.	集合	①令和 4年9 月14 日(水) ②令和 4年10 月28 日(金)	小中高校および特別 支援学校の教職員、 教育委員会の指導主 事、地域コーディネ ーターの役割を担う行 政の担当者、地域おこ し協力隊員、一般の 方<定員 30 名>	①14 名 ②20 名
8	信州大学センター(教職 大学院)公開セミナー	『教師が働きやすい学校に求 められること ～国際的な視野 から考える～』	オンラ イン	令和5 年3月 10日 (金)	教育委員会関係者 学校管理職 一般の方	82 名

★信州大学センターのホームページ



独立行政法人教職員支援機構
信州大学センター

[センター概要](#)
[新着情報](#)
[研修一覧](#)



学び続ける教職員を応援します

NITS 信州大学センターについて

独立行政法人教職員支援機構（NITS）と信州大学大学院教育学研究科は、2016年4月18日に連携協定を締結し、その協力関係を基盤として2020年度には、教職員支援機構・信州大学センターが開設されました。

主な役割・機能として

- ・信州大学教職大学院の教育力と特色を活かした研修講座の実施
- ・教育委員会をはじめ他の研修機関との連携による地域貢献型の研修の実施
- ・中央研修センターの研修動画を活用した地域センター講座の開発

を担っています。長野県教育委員会および長野県総合教育センターとの協働、海外連携協定大学との連携などのネットワークを活かして、教職員の資質向上に寄与してまいります。

(<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/education/nits-center/>)

3. 令和4年度の研修事業の概要

3-1. 次代を担う中核教員養成研修

◆概要

長野県の次代の教育を担う教員に対し、教師としての心構えを見返し、教育に係る最新の知識・スキルを習得することにつながる研修を実施し、柔軟な見方や考え方を養うとともに、幅広い知見を得ることで主体的に学校づくりに関われる中核教員としての資質能力を高めることを目的として開催された講座である。

◆対象者

令和4年度中核教員。各郡市（県内15ブロック）から2名以内での校長会による推薦を受け、学びの改革支援課で最終選考した教員。＜参加者30名＞

◆研修内容・プログラム・日時・講師

（1）スタートアップ研修

5月12日（木）@総合教育センター

- ・外部講師による講義①「組織の学習サイクルを回すミドルリーダーの在り方」（上越教育大学教授 安藤 知子）
- ・講義「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について」（学びの改革支援課義務教育指導係長 臼井 学）
- ・1年間の見通しについて

（2）総合教育センターでの希望研修

※以下の、いずれかの講座を受講する。

- ・6月9日（木）「カリキュラム・マネジメント 応用」
- ・7月11日（月）「学校組織マネジメント 応用」
- ・8月1日（月）「学級づくり・学校づくり」

（3）県外視察

6月29日（水）～6月30日（木）

- ・長野県内及び北陸方面の学校を訪問
（屋代高等学校附属中学校、富山市立堀川小学校）

（4）夏期研修

7月29日（金）@総合教育センター

- ・外部講師による講義②「学校づくりとカリキュラム・マネジメント」（横浜国立大学名誉教授 高木 展郎）
- ・中間報告会について

(5) 学校づくり実践研修

① 自校の課題の解決策に取り組む

自校の課題、自身のキャリアステージに応じた学校マネジメントの取組を計画・実践。
中核教員サポート指導主事や教職員支援機構特別研修員の助言を受けながら、ファシリテーターとして、所属校や所属地区の各学校における校内マネジメント研修を実施（～12月上旬）。

② グループミーティング（6月～1月：年8回）

月1回を目途に、Web 会議システムにてグループ毎のミーティングを開催し、事例相談会を行う。各校の課題に取り組む過程で、相談や経過報告を行う。各グループには、中核教員サポート指導主事もアドバイザーとして参加。

③ 中間報告会

9月13日（火）@オンライン開催

②とは異なるグループを設定し、課題に対して、どのように取組を行ったのか、今後さらにどんな取組みが考えられるのか報告し合い、意見交換を行った。

(6) 「学びの改革フォーラムながの」での発表

1年間の研修の成果をレポート等にまとめて提出し（12月中旬）、それを基に令和5年1月27日（金）の「学びの改革フォーラムながの」で1年間の学びや取組を発表した。

(7) 各都市での報告会

各都市の校長会または教頭会等において、学んだ内容について発表する機会をいただいた。

◆実施主体

【共催】

長野県教育委員会 学びの改革支援課
独立行政法人教職員支援機構 信州大学センター

★総合教育センターと信州大学センター（教職大学院）との連携講座

3-2. 教師の教育観と授業～省察的实践を通した教師の更新～

◆概要

これまでの教材化のあり方や子どもへのアプローチについて省察し、子どもとつくる授業について具体的な実践事例を通して学こと…とした。

◆日時

2022年6月6日（月） 9:40～16:10（受付 9:10）

◆開催場所

長野県総合教育センター 〒399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

◆対象者

長野県内の充実期及び次世代育成期の教職員 <参加者 29 名>

◆講師

畔上 一康 教授(信州大学教職大学院)

宮川 達也 教諭(長野市立城山小学校)

◆研修内容・プログラム

9:10~9:35 受付

9:40~10:00 オリエンテーション、自己紹介(総合教育センター 専門主事 上條 大樹)

10:00~12:00 講義Ⅰ「信州の総合学習の理念と背景」

(信州大学教職大学院教授 教授 畔上 一康)

[昼食]

13:00~14:00 実践発表「子どもとともに更新し続ける教師」

(長野市立城山小学校教諭 宮川 達也)

14:00~15:50 講義Ⅱ・演習「協働的同伴者としての教師のアプローチ」

(信州大学教職大学院教授 教授 畔上 一康)

15:50~16:10 研修講座のふりかえり・アンケート記入

(総合教育センター 専門主事 上條 大樹)

◆参加費

無料

◆実施主体

共催:

長野県総合教育センター

独立行政法人教職員支援機構 信州大学センター

3-3.「学級づくり・学校づくり ～チーム学校と新たな学級経営～」

◆概要

教職員が同僚性を高めながら、学校組織マネジメントに取り組む手立てや、子どもの特性に応じた支援の方法や援助チームのあり方について学ぶこと…とした。

◆日時

2022年8月1日(月) 9:40～16:00(9:10受付)

◆開催場所

総合教育センター 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

◆対象者

長野県内の充実期及び次世代育成期の教職員＜参加者 72名＞

◆講師

青木 一 准教授(信州大学学術研究院教育学系)

◆研修内容・プログラム

9:10～9:35 受付

9:40～10:00 オリエンテーション、自己紹介(総合教育センター 専門主事 上條 大樹)

10:00～12:00 講義「特別に支援が必要な子どもをつつむ学級経営」

(信州大学学術研究院教育学系 准教授 青木 一)

[昼食]

13:00～15:30 講義・演習「チーム学校と同僚性・協働体制づくり」

(信州大学学術研究院教育学系 准教授 青木 一)

15:30～16:00 振り返りとまとめ(総合教育センター 専門主事 上條 大樹)

◆参加費

無料

◆実施主体

共催:

長野県総合教育センター

独立行政法人教職員支援機構 信州大学センター

3-4. へき地・小規模校の教育実践～個別最適な学びを実現する授業づくり～

◆概要

小規模校・少人数学級を強みに変え、個別最適な学びを実現させるための基本的な考え方を理解し、自校の子どもの実態に即した自由進度学習の実践の構想を建てるための研修を企画した。

◆日時

2022年8月18日(木)9:40~16:10 (9:10 受付開始)

◆開催場所

※新型コロナウイルス感染拡大状況により、オンライン研修に変更にした。

◆対象者

長野県内の充実期及び次世代育成期の教職員、信州大学教職大学院生<参加者 35名>

◆講師

【講師】信州大学学術研究院教育学系 教授 伏木 久始

【講師】信州大学学術研究院教育学系 准教授 大畑 健二

【講師】東京学芸大学 非常勤講師 佐野 亮子

【講師】元公立学校 教諭 竹内 淑子

【実践発表】王滝村立王滝小学校 教諭 三沢 敬正

◆研修内容・プログラム

9:10~9:35 受付

9:40~10:00 オリエンテーション、自己紹介(長野県総合教育センター専門主事 上條大樹)

10:00~10:40 講義 「少人数の良さを生かす授業づくり」(講師:伏木久始 教授)

10:40~11:20 実践発表 「小規模校での自律的な学びを目指して」(発表者:三沢敬正氏)

11:20~12:00 講義 「单元内自由進度学習の作り方・進め方」(佐野亮子氏)

<昼食休憩>

13:00~15:50 講義・演習 「自由進度学習における教師の仕事」

(講師:伏木久始 教授、大畑健二 准教授、佐野亮子氏、竹内淑子氏、三沢敬正氏)

16:00~16:10 振り返りとまとめ(上條大樹 専門主事)

◆参加費

無料

◆実施主体

共催:

長野県総合教育センター

独立行政法人教職員支援機構 信州大学センター

関係学校長 様

長野県総合教育センター所長

研修講座 「へき地・小規模校の教育実践」の実施について（実施要項）

このことについて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、下記の研修講座の実施方法を募集からオンラインに変更します。当研修講座は、Zoom ミーティングを利用して行います。

こちらのメールにて Zoom の参加 URL・諸連絡等をお知らせします。

下記の内容をご確認いただき、受講決定者へお伝えください。

記

- 1 講座名 3-7-02-03
「へき地・小規模校の教育実践 ～個別最適な学びを実現する授業づくり～」
- 2 講座日 令和4年8月18日（木）
- 3 実施方法 Zoom アプリを利用したオンライン研修
- 4 実施場所 1人1台の専用端末が準備でき、Zoom を使用したオンライン研修に専念できる場所として、学校長が認める場所（在宅研修を含む）
- 5 入室方法 <https://us02web.zoom.us/j/82843105867?pwd=RFBqZ01EdTc0dUdkNmRKT09OV1V2Zz09>
ミーティング ID: 828 4310 5867 パスコード: gaku0818
入室時のお名前を「名前@学校名」に設定してください。〔例 塩尻太郎@総合小〕
なお、入室方法の詳細は別添資料②「Zoom 入室の案内」にてご確認ください。
- 6 テキスト 当日のテキスト資料のデータを8月12日以降、以下の Google ドライブのリンク先へアップロードしますので、ダウンロードしてご使用ください。ファイルが開けない等の不都合がございましたら、担当までご連絡ください。
(テキストはこちらから↓)
<https://drive.google.com/drive/folders/1CZmihR5Ssk7X5iG47Y1Qzkzv2QT6Tnks?usp=sharing>
- 7 ふりかえり 研修講座のアンケート及びふりかえりは Google forms で行います。研修終了後、下記のリンク先からお願いします。（研修当日にもチャットにてリンクを共有します）



研修アンケート

<https://forms.gle/fbZ5AbS5fP9sXGM6>


研修ふりかえり

<https://forms.gle/TH32VV8qT8ext6gR6>

- 8 その他
 - (1) やむを得ず、研修への参加に困難な状況が生じた場合には、管理職より、担当までご連絡ください。
 - (2) 別添資料①「研修講座 準備と当日プログラム」にある「受講者が当日までに準備すること」をお読みいただき、事前準備をお願いします。

長野県総合教育センター 企画調査部
 (所長) 宮崎 潤
 (部長) 宮下 哲 (担当) 上條 大樹
 電 話 : 0263-53-8802
 ファクシミリ : 0263-51-1290
 電子メール : kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

3-5. マイスター教員研修

◆概要

学校づくりの中核を担う教員が、自身の実践を振り返ると共に、最新の知見を学ぶことを通して、自らの専門性を磨き、授業技術や学級経営等のノウハウなどの経験を若手教員に伝えるための資質能力を高めるための研修である。本研修の講師は、大学教授等専門的知見を有する研究者及び長野県教育委員会が担い、本研修修了者には修了証を発行した。

◆日時

2022年8月10日(水) 13:00～16:10
(12:30 受付開始)

◆開催場所

長野県総合教育センター講堂

〒399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

◆対象者

対象は、深化・貢献期相当の教員(※1)を中心に、再任用や充実期相当の教員(※2)等とし、自らの希望で受講とした。＜参加者 60名＞

※1 深化・貢献期相当教員：経験20年程度以上の教員

※2 充実期相当教員：経験10年から20年程度の教員

◆講師

青木 一氏（信州大学学術研究院教育学系准教授）

三石 雅幸氏（箕輪町立箕輪中学校教諭）

◆研修内容・プログラム

13:00～13:10 開会行事

13:10～14:20 講義・演習 信州大学学術研究院教育学系准教授 青木 一氏

14:40～15:40 基調講演 箕輪町立箕輪中学校教諭 三石 雅幸氏

15:40～16:00 質疑応答・感想発表等（アンケート記入を含む）

16:00～16:10 閉会行事

令和4年度
マイスター教員研修

～子ども・同僚の心に火を点す
教師の使命の振り返りを！～

令和4年8月10日(水)
長野県総合教育センター講堂

13:00～13:10 開会行事
13:10～14:20 講義・演習
講師 信州大学学術研究院教育学系 青木 一 准教授
14:40～15:40 基調講演
講師 箕輪町立箕輪中学校 三石 雅幸 教諭
15:40～16:00 質疑応答・感想発表等
16:00～16:10 閉会行事

昨年度の参加者満足度

大満足
満足度でした
大満足 80%
おおむね満足 11%

・今後の教員生活にどう活かすか考えるように取り組みました。さらに資質能力をつけていきたい。
・自分が、共に成長する仲間として自分自身が努力し続ける存在でありたいと思えました。

基調講演テーマ
「心が技術を越えない限り
決して技術は生かされない」

箕輪町立箕輪中学校
三石 雅幸 氏

PROFILE
昭和39年生まれ 58歳 (R4.8.10現在)
選任、長期体育科教諭 生徒指導主事
日本中体連バレーボール競技部強化委員長
男子U15監督兼任

※参加者の旅費についても当課にて予算化しております。

長野県教育委員会事務局学びの改革支援課 ・ 独立行政法人教職員支援機構信州大学センター

◆参加費

無料

◆実施主体

共催：

長野県教育委員会事務局 学びの改革支援課

独立行政法人教職員支援機構 信州大学センター

3-6. 教室の中での異文化理解 ～違いを認め尊重しあう社会を目指して

◆概要

教育界や産業界の国際化が進む中で、外国籍児童・生徒も増加しています。異文化摩擦を乗り越え、多様性を受容し、文化や生活習慣等の違いを認め合う中で、共に生活し学び合うマインドを高めるには、どのような発想が求められるのか考える講座として設定。

本講座では、教室の中での異文化理解を推進していこうとする先生方のために、2人の専門家を講師にお迎えし、学校現場での実践に焦点を当て、参加者の皆さんの悩みや問題意識に寄り添いながら、アットホームな雰囲気の中で異文化理解を考え合う貴重な機会をご提供した。

◆日時

2022年8月19日(金) 13:30～16:30

(13:00 受付開始)

◆開催場所

※新型コロナウイルス感染拡大状況により、オンライン研修に変更実施。

◆対象者

小・中学校、高等学校および特別支援学校の教職員、教育委員会関係者<参加者 12名>

◆講師

①徳井厚子(信州大学教育学部教授)

②吉野康子(東京家政大学人文学部特任准教授)

◆研修内容・プログラム

13:00 受付開始

13:30-13:40 主旨説明

13:40-14:40 第1部:外国籍児童教育の視点から～講義&演習～(徳井厚子)

<休憩 10 分>

14:50-15:50 第 2 部:英語教育の視点から～講義&演習～(吉野康子)

<休憩 10 分>

16:00-16:30 ふりかえり

◆参加費

無料

◆実施主体

主催:NITS 信州大学センター

後援:長野県教育委員会・飯田市教育委員会

◆参加者の感想から

◎日本語支援が必要な子どもが増えているという話を聞き、国籍問わず、両親が日本人の子どもでも日本語の理解がうまくできない子どもを目の当たりにして、学級全体に日本語を理解できるように何かしらの支援をしていけたらいいなと思いました。また、異文化理解のモデルの話を聞きながら、子どもの成長過程を思い浮かべました。人間関係を異文化理解と重ねて考えると、小学校低学年、高学年、中学生の中で、異文化を排除しようとするような気持ちは、いじめの問題などと一緒に考えられるなと思いました。

◎大人になっても違う県や場所に行けば異文化を感じるのに、児童が国を超えて新しい場所で過ごすというのは、きっと大きなストレスを感じるのだらうなと思いました。外国語の授業であれば、完璧な英語でなくてもよいけれども、本当の自分を表現したり、相手に配慮して聞いたり読んだりできることを大事にした授業にしていきたいと改めて思いました。そういった積み重ねが違いを受け止めることができる児童生徒の育成につながると思うので、自分もコミュニケーションを楽しみながら、また先生方に楽しんでもらえるような研修を行っていききたいと思います。

◎ぜひ、異文化理解についての教員研修を続けてほしいと思いました。また、このような意義のある研修に一人でも多くの現職の先生が参加できるといいなと思いました。本日は、準備職員会等、夏休み明け初日の学校も多いかと思います。先生方のゆとりがある時期に開催することができるとしたら願います。来年度も参加したいと思います。

独立行政法人教職員支援機構 信州大学センター
令和4年度研修事業

教室の中での異文化理解

～違いを認め尊重しあう社会を目指して～

教育界や産業界の国際化が進む中で、外国籍児童・生徒も増加しています。異文化理解を深め、多様性を受け入れ、文化や生活習慣等の違いを認め合う中で、共に生活し学び合うマインドを築くには、どのような発想が求められるのでしょうか？

本講座では、教室の中での異文化理解を推進していくとする先生方のために、3人の専門家を講師にお迎えします。学校現場での教育実践に焦点を当て、参加者の皆さんの悩みや疑問事項に寄り添いながら、アットホームな雰囲気の中で異文化理解を考え合う貴重な機会をご提供します。

2022年 8月19日(金)
13:00受付開始(講習13:30～16:30)

参加無料
【事前申込制】
2022年8月12日迄

場所 ▶▶ 信州大学教職大学院
南信州サテライトキャンパス
(飯田市立飯田東中学校内)

対象 ▶▶ 小・中学校、高等学校および特別支援学校の教職員
教育委員会関係者(定員先着30名)

Web申込サイト
<https://bit.ly/38yQeHt>

Time table	
13:00 - 受付開始	
13:30 - 講習開始	
第1部	外国籍児童教育の視点から 講師：信州大学教育学部教授 徳井 厚子
第2部	英語教育の視点から 講師：東京家政大学人文学部特任准教授 吉野 康子
16:30 - 講習終了	

*新型コロナウイルス感染拡大状況により、研修の変更や中止の可能性がります。

主催 独立行政法人教職員支援機構 信州大学センター
後援 長野県教育委員会・飯田市教育委員会

お問い合わせ 独立行政法人教職員支援機構
信州大学センター
nits@shinshu-u.ac.jp

3-7. コミュニティ・スクール地域コーディネーター養成講座

◆概要

地域に開かれた教育課程の編成を求められる学校と、学校との連携を踏まえた活性化が期待される地域とを繋ぐキーマンとしてのコーディネーターを養成する研修である。

◆日時

第1回 2022年9月14日(水) 13:30~20:00(13:00 受付開始)

第2回 2022年10月28日(金) 9:30~16:00(9:00 受付開始)

◆開催場所

第1回 上田市立北小学校、上田市中央公民館(大会議室)

第2回 大町市立美麻小中学校

◆対象者

小中高校および特別支援学校の教職員、教育委員会の指導主事、地域コーディネーターの役割を担う行政の担当者、地域おこし協力隊員、一般の方<定員先着30名のところ36名参加>

◆講師

前川 浩一

(文科省総合教育政策局 CS マイスター・美麻小中学校地域学校協働コーディネーター)

伴 美佐子

(長野県教育委員会信州型 CS アドバイザー・上田市立北小学校地域コーディネーター)

早坂 淳

(長野大学社会福祉学部教授・長野県教育委員会信州型 CS アドバイザー)

塩原 雅由

(大町市教育委員会学校教育指導主事)

楠 武明

(長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課)

◆研修内容・プログラム

【第1回】

13:00 受付開始

13:30~13:45 日程等説明(北小学校):伴美佐子

13:50~15:20 地域講師によるクラブ活動参観(北小学校):早坂淳・伴美佐子

15:20~15:30 諸連絡

移動

16:00～17:00 現地研修についてのふり返りと意見交換(上田市中央公民館):前川浩一

17:00～18:00 夕食(各自)

18:00～20:00 上田市地域づくり連続講座「北小学校実践発表」(上田市中央公民館)

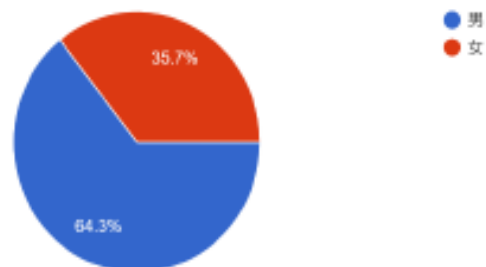
18:00～18:50 実践発表:北小学校長(上野勝裕)、地域連携担当教員(服部直幸)

19:00～19:45 演習:伴美佐子

【参加者アンケートから】

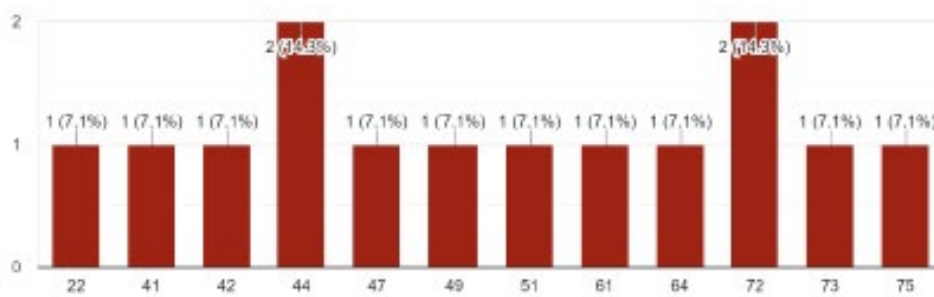
1-1. あなたについて教えてください【性別】

14件の回答



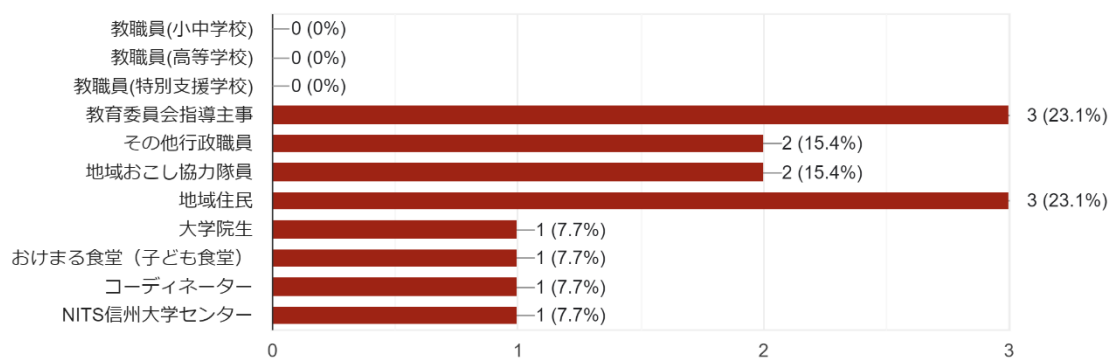
1-1. あなたについて教えてください【年齢】

14件の回答



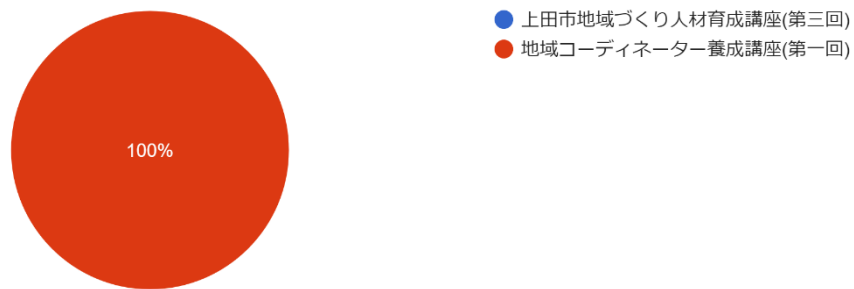
1-2. ご自身のお立場を教えてください(該当するものに☑)

13件の回答



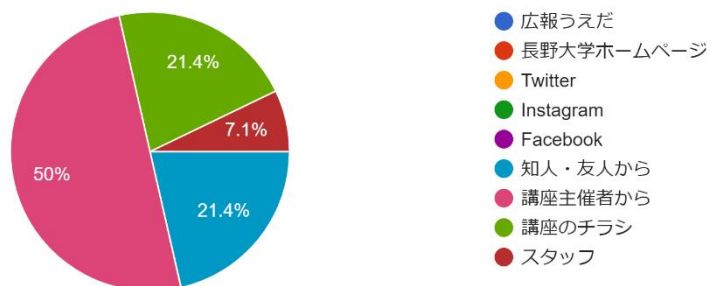
1-3. 今回お申込みされた講座はどちらですか (該当するものに☑)

11 件の回答



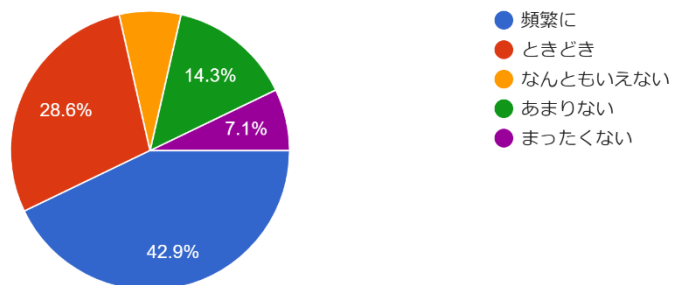
1-4. 本講座に参加する決め手となったものを教えてください(該当するもの一つに☑)

14 件の回答



1-5. あなたが地域の子どもや学校に関わる頻度を教えてください(該当するもの一つに☑)

14 件の回答



1-6. 上の質問で「頻繁に」「ときどき」と答えた方は、どのような活動(に参加)をしているのか教えてください。「なんともいえない」「あまりない」「まったくない」と答えた方は、その理由を教えてください。(14 件の回答)

庭の剪定作業、子どもたちと芋掘り作業、花植え子どもたちと一緒に

北部民生委員です

小学校の行事に参加している
学校関係者との会議など
地域の学校のコミュニティスクールの活動として参加している
現在子育て中なので（小５母）、仕事でも地域の子供を集めるような講座を企画しています。
実習で子どもと関わることはありますが、地域という面では関わりが薄いと感じたのでこの回答になりました。
単身赴任中であるため（自宅に帰れないため）
地域の方と子どもたちが関わる活動の取材、学校の先生方との研修会
CAP スペシャリスト、上田市子育てサポーター、おけまる食堂、学習支援、読み聞かせ、北小クラブ担当、放課後児童クラブ支援員
地域学校協働活動、学校運営協議会
立場上あまり関りが無い
地域の大人の方とは会議や研修等で関りがあるが、子どもたちと関わる機会が作れないでいる。
学校訪問やCS 運営委員会で

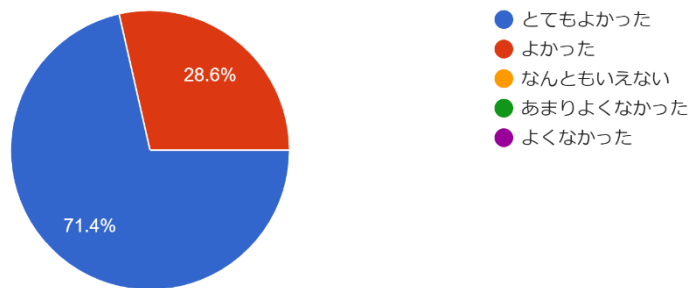
1- 7. あなたが地域の子どもや学校に関わる活動(に参加)をする上で感じている難しさや課題があれば教えてください。（17 件の回答）

伴先生の尽力が大きいです
コロナの感染状況等のより、学校との会議が中止になったりすること
地域の人たちに、学校に関わる活動に興味関心、その意義、成果などをいかに伝え、理解を深めてもらうか。その為の活動（年齢的には自分にはあまり時間が残っていない）具体的に知りたい。
参加してくれる（力を貸してくれる）大人を見つけること
その地域のことをよく知らない私がどこまで真剣になれるか、そしてその地域を存分に知っている人とどのようにつながっていくのか
その方々のニーズに合った研修会になっているかどうか
子どもたちの居場所づくりをしていますが、もっと学校と連携したいです
多様性
どのくらい関わるのか、その部分で悩む→直接指導する立場ではないので
PTA での活動ぐらいしか参加していない。関わる場や機会と仕事のバランスをとるのが難しさがある。
学校の敷居、教え・教わる関係から共に学び、つくるパートナーとしての立場に見方・視点を変えること（自分も学校も）

【講座開始後にご回答いただく質問項目】

2- 1. 講座第一部「北小学校の二つの事例発表」はいかがでしたか (該当するものに 四)

14 件の回答

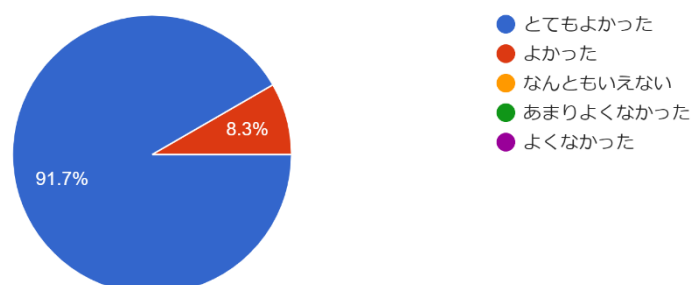


2- 2. 上でそのように答えた理由を教えてください (14 件の回答)

自然に 6 年 2 組の生徒とボランティアとで苗を植えたこと
我々の小学校時代と違い今は色々の活動をしている事、昔は地域講師はなかったと思います、今の子供たちは幸せですね、素晴らしい取り組みです、地域の人と一緒に活動していることは子供達との触れ合いができる、すごくいい経験になっていると思います、色々とアイデアが出る
先生のお話が分かりやすく良かったです。1 番は生徒のためになっているなーと思いました。
分かりやすい説明で学校と地域の取り組みが良く分かった
ボランティアの皆さんが自然に学校の活動に合流している様子が伝わってきた。 剪定講座…子供たちが自然に活動に組み込まれていくようなきめ細やかな取り組みをされている。地域づくりの拠点に学校が候補になる点、学校に関わることが名人ワークに組み込まれること
近くにある小学校でこんなに学校と地域が繋がっていることに驚きました。ただただうらやましいと思います。こんな学校がどんどん増えていき、フツーになればいいのになと思います。
私は現在大学院にて、地域の方々が気兼ねなく学校へ訪れ、共に学ぶことができる学校の実現を目指し、研究を行っています。今回の発表では、まさに私の研究とマッチした取り組みを多く見ることができ、とても勉強になりました。私も今後現場へ出た際に北小のような取り組みができる教師でありたいと思いました。ありがとうございました。
北小の校長先生、服部先生の願いにより、子どもたちが多様な方々と関わりながら様々なことを学び、豊かに成長している様子を具体例や論理的に学ぶことができました。
子どもたちや地域の方のリアルな姿、楽しんでいる姿がとても伝わってきたからです。
子どもも北小で私も北小応援団ですが、本当に良い学校で感謝しております。いつも楽しく活動させていただいております。ありがとうございます。
・活動事例と成果が見れた ・今目指す方向を示していた

コミュニティスクールの第一線で活躍されているお二人から大変貴重なお話を聞くことができた。WINWIN の関係。大人のやりたいが子供の学びにつながっていくということ、今後参考にしたいです。
地域と学校との関りをたくさん発信していただいたこととても参考になりました。「お膳立てのない自然な関り」「学校は急激な変化はなじまない、緩やかな変化を」といった言葉が心の残りました。学校で学ぶのは子どもたち、という意識も変えていかなければいけないのかなあと考えさせられました。
スクールコミュニティという考え方について、服部先生の捉えを明確に言葉にしていたと思うから。大人も学ぶという具体的姿を見せていただきありがたかったです。

2- 3. 講座第二部「グループワーク：CSクロスロード」(はいかがでしたか(該当するものに☑)
12 件の回答



2- 4. 上でそのように答えた理由を教えてください。 (11 件の回答)

世代や立場ごとに異なった意見が聞けて良かった
人間と持続性ですね。そこから生まれる意見、見方の違いを考えあう熟議 人が好きになる子ども達、視線が柔らかくつながり、心が和む人間関係でありたいなど (地域の大人たちと子ども達、そして互い同士)
全く知らない方たちとだったのにビックリするほど、考えられる時間でした。
グループの方たちと、それぞれの価値観を大切にしながら、あーでもないこーでもないと 考える時間がとても楽しかったです。子どもも大人も正解を求められることが多い世の 中ですが、正解に捉われない考えが大切だということを改めて感じました。
まさに「協働」の大切さを感じられるご講演でした。ありがとうございました。
自由に考えを伝え、聞くことができたから
お3人ともそれぞれのお立場での発表、どれも素晴らしかったです。
楽しい、学びになる
正解のない中で多様な考えに触れることができ、とてもよかった。熟議、これからも大切 にしたいと思いました。
熟議もCSクロスロードのように皆さんでワイワイできるときっと素敵なアイディアが出 てくるのだろうなと考えました。学校と地域の関係性、なんでも言い合える場づくり、ま た考えていきたいと思います。
明らかな答えのないことについて個人で考えたり、互いの考え方を聞きあったりするこ

とで、ほんの少しかもしれませんが視野が広がるきっかけとなったかもしれないと感じたから

2- 5. 本講座でもっとも印象に残っていることを教えてください。 (13 件の回答)

フラワーロードにて苗作りから生徒とボランティアとで苗を植えたこと
校長先生が情熱的に取り組んでいる様に感じます。やる気が起きます。生き生きとしている。レベルの高い講習ですね。なかなか
持続性の秘訣はやりたいことをつなげること
クラブ活動等のボランティアの意欲、参加の取り組みの意欲、地域の方々が深く理解しておられるのかとの思い
色々な世代がひとつになつてる空気を感じました。
認知症のクラブ活動での講師を引き続き採用するか否かのお話
80 歳でも学ぶことがある、75 歳で初めて挑戦した、学び続ける大人を子どもに示す大人の姿。そんな姿が多くある学校、学級でありたいと思いました。
子どもたちとち地域の方々の笑顔
全部
コーディネーターとして
上野先生、服部先生の講演
大人が学ぶ、大人のやる気→どう育むのか引き出すのか、誰が仕上げていくか考えていきたいです。
「理想は学校の中に子どもたちと地域の方が自然にすること」という話がとても印象的でした。急激にその環境をつくることは難しいと思いますが、それを理想として持っていきたいと思います。

2- 6. 本講座の実践の中で、自分たちでも取り組んでみたい活動があれば教えてください。 (6 件の回答)

PTA と CS の結合 (今まさに考えている事、してみたいこと)、学校全体も学校と地域の連携を更に深く意識し合えるような共に深め合う関係づくり
北小でプレゼンしてみたいです。
北小での取り組みは私も混ざって取り組みたい！と思うワクワクする活動が多く、魅力がたくさん詰まっていました。教員になってから立ち上げるのは非常にパワーが必要であると思いますが、率先して周りを巻き込める教員になりたいと思います。本日はありがとうございました。
県内に上田市の実践を紹介できるようにしていきたいと思います。
またこれからもよろしくお願いします。
学校訪問や研修講座に活かしていきたいです。

◆第Ⅰ回講座 参加者の意見交換・質問と回答（in 上田北小 R4.9.14）

◎【グループでのふり返りでの議論から】

〔I さん〕地域の方が関わってくださるのがすごい。それまでの積み重ねたやり取りがいっぱいある。

〔S さん〕北小は私の母校。自分の頃とは違っている。先生一人だったが、地域の人はいなかった。地域の方がいたら楽しかっただろうな。あいさつをしっかりとっている。社交的な子が多い。地域の方が入ること、子どもたちの性格などに影響。組織作りが大変だったと思う。つくるまでが大変だったと思う。どういう風に構築されたか勉強したい。

〔K さん〕こういう組織がどうやって立ち上がったのか。0から立ち上げるのは大変。どうやって運用しているのか学びたい。子どもが地域の専門の方から学んでいるのがよい。クラブで学んだことを家に帰ってから家の人に伝えることもあるだろうから、文化も継承されていってよい。

〔Y さん〕飯田下伊那地域はクラブが減っている。北小のカリキュラムにしっかり入っているのは大事。カリキュラムマネジメントをどのようにやっているのか大事。地域の方がイニシアチブをとり、教師も学んでいるのは最高のスタイル。こういう歩みが部活動の地域以降の一步。組織の立ち上げをどうやっていったか、今日学びたい。

〔I さん〕地元のサッカークラブに入っていなくても、サッカーやってみたいなと興味のある子が取り組める。興味があるけど、クラブチームには入らない子にとってよい。入門、楽しむのによい。そういう意味で、学校でクラブをやっている意味がある。

〔校長先生〕特別支援学級の子がサッカーを楽しんでいる。地域の方にその子の事情を話したが、その子が一生懸命やっていると話してくれた。地域のクラブとは違うよさがある。

〔I さん〕男子の興味が偏ってしまわないか。その場合は、どうしているのか。

→〔校長先生〕基本は6年生の第1希望を優先。それでも、あふれる場合は6年生で相談。強制的に移動はさせない。少人数のところがあるが、そういうところも大人が何人入っても良いということにしている。学年の偏りはものすごくある。

〔山浦先生〕学校ではないところで、子どもの「好き」ととことん追求できる、それを大人が支える、というお金をかけない、NPOを立ち上げようとしているところがある。北小のクラブは、子どもの好き、楽しむことをやったださっている。子どもたちの好きは、キャリア教育の上でも、大人になって影響がある。お金をかけずにサポートできるのがよい。

〔校長先生〕ボランティアの方には、謝礼を出していない。材料費は集めているが、足りない分をボランティアの方が出してくださっているクラブもあると思う。

〔I さん〕そういうことまでしてまでも、なぜボランティアの方が来てくださるのかを聞きたい。

◎【感想・意見交換会での声から】

〔県教育委員会文化財・生涯学習課 Y さん〕私は上田市が母体だが、同じ上田市でも学校

によって差がある。自分の学校も地域のボランティアに入っていたが、ここまでボランティアの方が主体ではなかった。子どもたちの心と体が開いている。笑顔で答えたり、あいさつしてくれたりした。すごく明るくて素敵な学校。ボランティアが関わってくださる体制が、いつまで維持できるのか。人手不足が予想されるが、人手不足に今後どう対応していくか。子どもたちが放課後を過ごす場所としての役割も、学校に何かあるのではないか。

[校長先生] 明るい挨拶が目指す子どもの姿。ほめていただけてうれしい。どうやって活動を維持していくかは課題。ボランティアがどうつながっていくか。違うクラブが立ち上がってもいい。本校は希望する子がいないと立ち上がらない。ヨガクラブは今年から立ち上がった。去年の 9 月保護者からお手紙をもらった。その方にお電話して、プレゼンをお願いした。他にも子どもたちと一緒にやりたいという方がいらっしゃるはず。いろんなことが考えられる。持続可能な地域の方とのかかわりを模索している。

[南進教育事務所飯田事務所Uさん] 笑顔で子どもが答えてくれる。やりたいことをやっているのからだと思う。地域の方がいっぱいいる。若い方もいっぱいいる。持続可能になっているのではないか。他の地域でも、高齢化での人手不足が課題になっている。講師の方の仕事でのつながりや、保護者の方がクラブに入っている。講師の知り合いも入ってくださっている。地域の方がやりたいということにつながってきている。コミュニティルームで、打ち合わせができるのがよい。生きているスペースになっているのがよい。

[信大院Sさん] 立ち上げをどのようにやっていったのか。地域の方が入って循環してやっているのが、どうやって立ち上がったのか。クラブに入っていない子が、学校のクラブを通じて触れ合えるのがよい。私は 11 年前の卒業生。自分たちが取り組んでいたフロアロードの活動等が今につながっていると思うと嬉しい。

[上田市立第六中Kさん] はじめは立ち上げに苦労があったこととお聞きした。成熟するまでに苦労があったこととお聞きした。子どもからの希望調査から第 1 希望になるか第 2 希望になるかで子どものモチベーションに差ができる。6 年生は第 1 希望優先。講座の人数制限等の運営の難しさがあると思った。

[安曇野市立三郷小学校Iさん] ボツになったクラブについてお聞きしたい。地域の方の思いと子どもたちの意識のずれがどうか聞きたい。

[伴さん] ボツになったクラブは全部で 3 つあった。あるクラブは、最初はビデオクラブの講師をされていた。座学が多くて話が長かった。子どもが翌年誰も選ばなかった。翌年、謝りに行ったが、「俺のやり方が悪かった」と言ってくださった。今年は勉強のつもりで北小のビデオを撮りためて、編集をしてDVDを渡すと言ってくださった。今年は、コンピュータつくっちゃおクラブの講師をしている。他のクラブは、プレゼンが下手だったため成立しなかった。

[県教育委員会文化財・生涯学習課Yさん] 子どもたちから「やりたい」と希望が出た場合はどう対応しているのか。

〔服部先生〕12月に子どもにアンケートをとって、その結果を学校運営委員会で話題にし、講師募集をしたり、興味の具合を伝えてもらったりして調整を図っている。先生にも諮って、5月にプレゼンを行い、5月中旬にクラブをスタートしている。



【第2回】上田市立上田北小学校CS

9:00 受付開始

<進行:伴美佐子>

9:30~10:00

美麻小中学校の説明:山口直之副校長

10:00~11:00

CSと地域コーディネーターの役割

(美麻小中学校の事例をもとに)

+ワークショップ:前川浩一

11:10~12:00

CSをもとにした学校改革と地域コーディネーターの役割

(大町市の事例をもとに):塩原雅由

12:00~13:10

昼食(各自持参)

13:10~13:35

総合学習「美麻市民科」とまとめの会について説明

13:35~15:25

総合学習美麻市民科まとめの会の見学

15:35~16:00

講座まとめの会:早坂淳

令和4年度研修事業

独立行政法人教職員支援機構
信州大学センター

コミュニティ・スクール 地域コーディネーター養成講座

地域に開かれた教育課程の編成を求められる学校と、
学校との連携を踏まえた活性化が期待される地域とを繋ぐキーマンとしての
コーディネーターを養成する研修です。

第1回

2022年 **9月14日(水)**

場所 >> 上田市立北小学校
上田市中央公民館
(大会議室)

対象 小中学校および特別支援学校の教職員や教育委員会の指導主事、地域コーディネーター
の役割を担う行政の担当者、地域おこし協力隊員、一般の方(定員先着30名)

参加費無料

Web申込サイト
<https://bit.ly/3Mhgaki>
2022年 9月7日(木)まで

講師

前川 浩一 氏 (文科省総合教育政策局CSマイスター・美麻小中学校地域学校協働コーディネーター)
伴 美佐子 氏 (長野県教育委員会信州型CSアドバイザー・上田市立北小学校地域コーディネーター)
早坂 淳 氏 (長野大学社会福祉学部教授・長野県教育委員会信州型CSアドバイザー)
塩原 雅由 氏 (大町市教育委員会学校教育指導主事)
楠 武明 氏 (長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課)

Program

第1回 13:30~20:00
(13:00受付開始)

13:30~15:30 オリエンテーション
上田市立北小学校参観
16:00~17:00 ふり返りと意見交換
<各自夕食>
18:00~20:00 上田市立北小学校実践発表
演習

第2回

2022年 **10月28日(金)**

場所 >> 大町市立美麻小中学校

Program

第2回 9:30~16:00
(9:00受付開始)

9:30~12:00 大町市立美麻小中学校および
コミュニティ・スクールについて
の講義
<各自昼食(持参)>
13:10~16:00 総合学習美麻市民科まとめの
会についての講義・参観

持ち物 >> 第1回、第2回ともに上履きをご持参ください。
>> 第1回の夕食は持参各自でお取りください。また、第2回の昼食をご持参ください。

—— 新型コロナウイルス感染拡大状況により、研修の一部変更の可能性があります。——

主催 独立行政法人教職員支援機構 信州大学センター

共催 長野県教育委員会

後援 上田市教育委員会、大町市教育委員会

お問い合わせ
nits@shinshu-u.ac.jp

◆第2回講座 参加者からの質問と回答 (in 美麻小中 R4.10.28)

◎講義1 (前川さん) 後の 質疑・応答

・(飯田事務所 U さん) コーディネーターの前川さんが授業の立ち上げから関わるのが大切とおっしゃったが、どれくらい学校にいるのか。

→年間 300 時間、週2・3日来て2時間ぐらい先生と話す。(大町市の規定は 200 時間)。校長先生ともよく話す。

・(軽井沢中 A 先生) 前川さんが、こんなに学校のことを詳しく知っていて学校のことを説明するのに衝撃を受けた。どうしてこの立場になろうと思ったのか。

→元々地域づくりをやっていて、総合的な学習の時間に関わっていた。外国との交流のリーダーもやっていた。コーディネーターになれと言われ、東京へ出かけ知合いのコーディネーターに話を聞いた。小さな学校の CS は大原学園しかなかった。校長先生と相談を積み重ね、先生と雑談することで、多くの情報を得た。職員研修に出ると、多くのことを学べる。研修で、ここが見るポイントだとか学ぶことができる。

・(信大院 K さん) 前川さんがリーダーシップをとって協働活動が行われてきたと思うが、誰がリーダーシップをとっているのか。

→自分の興味があることは、海外も含め学びに行っている。色んな人とつながる努力をしている。自営業なので、自分で時間をコントロールできる。自分ができないことは他の人にお願いし、他の人ができないことをやる。責任は自分がとると言っている。塾や家庭教師をやっている関係で少し教育のことに関する知識があった。地域にも関わっていた。地域は誰かが上に立ってやらないと動かない。人を動かすことができる人が必要。

・(信大院 K さん) 継続性を考えると、前川さんはかなり貴重な人材と思うが、後継者育成はどうなっているか。

→病気で行事に行けなかったときに、他の人が代わりにできた。街づくりの仲間がいる。私がいなくてもやれると思うが、後継者育成は意識している。

◎講義2 (塩原先生) 後の 質疑・応答

・(中信教事 D さん) 卒業生が前川さんみたいになりたいという話があったが、他校や地元では高齢化でボランティアの参加がなかったり、若い人の参加がなかったりする。美麻ではどうか。

→(前川さん) 北海道教育大へ進学した女子生徒の例。大学で起業し、ゲストハウスを運営、塾も立ち上げている。

(塩原先生) 美麻で教育を受けた子どもたちが、何を感じ将来どうなりたいのか、きちんと子どもたちが答えをもつようになる。

(前川さん) 彼女の今の悩みは、北海道で教員になるか、美麻に帰ってきて教員になるかである。

(塩原先生) 優秀なコーディネーターの後釜をつくるには、今の子どもたちに CS を活用した仕組みの中で、生活させるしかないと思う。そうでないと後継者はなかなか出てこない。いくつかの CS の成功例があるが、そこで育った子どもたちは前川さんのような存在になりたいなという希望を抱く。

(前川さん) 後を継ぎたいと言った子は、地域のトップ校に行ったが、服飾の専門学校に行き、服を売る会社を起業している。

・(北信教事 M さん) 学校運営協議会の委員が大事というお話があったが、充て職で何をすればいいのかわからない人もいる。美麻は全ての方がボランティアをして子どものことを知っているが、そういう関わっている方を委員に選らんでいるのか。

→ 始めからそうであったわけではなく、だんだんそうになった。始めは、充て職だった。委員は子どもの姿を見ておかないと、学校関係者評価はできない。委員の選考は、これから工夫されていった方がよい点である。

・(飯田事務所 U さん) 管内ではコーディネーターを教頭や公民館の主事が担っている。コーディネーターを見つけてくるのに大町市はどういう工夫をしているか。

→ (塩原先生) 大町市は教育長が任命している。教育長が地域住民をよく知っている。教育長が街に出て行って、どんな特性を持っている住民がいるのか、何をできる人がいるのかを知っている。ネットワークをもっていることが大事。教育長じゃなくてもよい。教育委員会の運営を縦割りではなく、横断的にすればよい。教育委員会も変わらないとダメ。校長先生が変わる前に教育委員会が変わることが大切。

・(中川中 A 先生) 4名で参加する予定だったが役場職員とコーディネーターは欠席した。中川村も児童数が減ってきて統合の検討が立ち上がった。学校等のビジョンと地域の協力がないと子どもたちのためにならない。コーディネーターが3名いるが、昔は統括コーディネーターが1人いたが、今は各校のコーディネーターと教頭が協力して進めている。大町市は、コーディネーター同士の横のつながりがあるか。県でも前川さんのようなお話をコーディネーターの人が聞ける研修をしてほしい。

→ (塩原先生) 大町市では市教委が束ねてコーディネーター連絡協議会を年3回、連絡や研修を行っている。コーディネーターによっては、他校の学校運営協議会にオブザーバーで参加されている方もいる。

(前川さん) 私も他校の研修に参加している。北小カフェに参加しているコーディネーターもいる。

(塩原先生) 美麻はCSを先に立ち上げて、その後に義務教育学校にするかを検討した。住民の総意で義務教育学校にするようにした。

(飯田事務所 U さん) 県も県内5か所でコーディネーター研修会を開催している。よかったらご参加ください。

・(信大院 S さん) 自分のことをふり返ることができないという課題を抱える教員の友だちが多い。美麻はコーディネーターの協力のもとそれができているのがすごい。校長として普段の生活の中で、教員と関わるのに大切にしていたことはあるか。

→ (塩原先生) 相手は子どもだが、子ども扱いしてはダメ。1人の人間として、人権をもった人間として見ていかないといけない。教師はどうあるべきかを考えていってほしい。教師は異動を続ける一人旅。学校によって考えが違う。協働的な学びを日常的にやっている学校もあれば、そういう授業は研究授業でしかやらない学校(一斉授業)もある。校長として大切にしていたことは、教師としての生き方を再考する教師であってほしいということ。そのためにも、校長のビジョンは大切である。

◆参加費

無料

◆実施主体

主催：(独)教職員支援機構(NITS)信州大学センター

共催：長野県教育委員会

後援：上田市教育委員会、大町市教育委員会

3-8. 信州大学センター(教職大学院)公開フォーラム 『教師が働きやすい学校に求められること ～国際的な視野から考える～』

◆概要

学校の教師の働き方改革が叫ばれる中、日本の学校がこれまで担ってきた様々な業務の見直しが進められている。また、日本の教師文化の中でも継承していきたい点や変わるべき点などについては、異文化との比較を踏まえた国際的な視野から捉え直すことで考えやすくなる。

本フォーラムでは、フィンランド在住のヒルトウネン氏より、働く人の多くが午後4時には帰宅するというフィンランド社会の中で、教師たちが学校でどのように働きやすい環境づくりを工夫しているのかを話題提供していただく。また、長野県庁での行政職や池田町の教育長などを歴任された竹内氏からは、日本の学校の中にも子どもをまんなかにしてウェルビーイングを高めようとする学校の挑戦があることに触れて、働きやすい学校に求められることを語っていただく。一般参加者を交えてのディスカッションも予定している。

◆日時

2023年3月10日(金) 20:00~21:30

*フィンランド冬時間で13:00~14:30(日本との時差はマイナス7時間)

◆開催場所

オンライン開催

*二人の講師はいずれもZOOMに接続して遠隔会議型で参加

◆対象者

主に教育委員会関係者、学校管理職、一般(どなたでも自由参加)

◆講師

①ヒルトウネン 久美子 氏

(フィンランド教育/福祉スペシャリスト KH Japan Management 代表)

②竹内 延彦 氏

(こどもの育ちと学び研究所 代表)

◆研修内容・プログラム

【タイムテーブル】

19:50 <この時刻までは待機室にてお待ちいただきます>

20:00 開始(主旨説明等)

20:05 話題提供①:『フィンランドの先生たちの働き方』(質疑応答を含む)

講師:ヒルトウネン久美子氏

20:30 話題提供②:『日本の学校現場の挑戦と可能性』(質疑応答を含む)

講師:竹内延彦氏

20:55 指定討論

21:00 ディスカッション

21:25 アンケートタイム

21:30 終了

◆参加費

無料

◆実施主体

主催:NITS 信州大学センター

信州大学センター 公開フォーラム

第3回

教師が働きやすい学校に求められること
～国際的な視野から考える～

参加無料 <事前予約制>

2023年 3月10日 金 20:00-21:30

オンライン(ZOOM)での開催

マクロな視点からの評論ではなく、現場の事実を大事に語る二人と語り合う会

話題提供①:『フィンランドの先生たちの働き方』

講師:ヒルトウネン 久美子 氏

※フィンランド教育/福祉スペシャリスト KH Japan Management代表

話題提供②:『日本の学校現場の挑戦と可能性』

講師:竹内 延彦 氏

※こどもの育ちと学び研究所 代表







お申し込み
はこちらから
(3/9 締切)

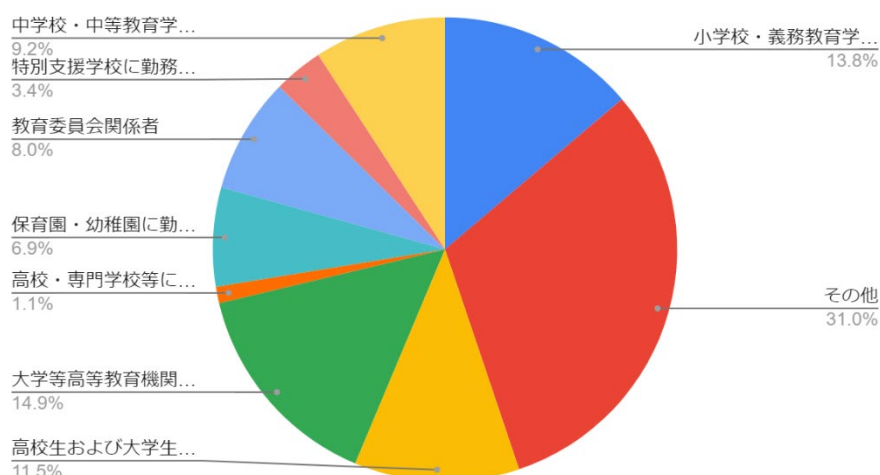
<https://bit.ly/3jaEVQ>

参加申込
お問い合わせ

NITS信州大学センター企画担当 伏木久始/土屋陽子

メール: nits@shinshu-u.ac.jp

「ご所属等」のカウント数



◆本日のフォーラムの講師のお話、ディスカッションについて感想をお聞かせください。

【Google Forms での終了後アンケートへの回答から】

◎教育において、何が大切で、組織の中で何を大切にしていけるのか見えてきました。

◎日本の学校研修について、今までの型に囚われて自由にできないと思い込んでいたことがあったのではないかと、お話をお聞きしてこれまでを振り返りました。ディスカッションでは突破力についての話になりました。さらに皆様の話を聞きたいなと思いました。

◎こどもの権利だけでなく、先生の権利も守られるようになっていくことが大切にだと思いました。こどもの人数、学びの内容についても海外のようにできないものかとも思いました。

◎期待通りの、非常に明日への力になるお話でした！レコーディングされているとのことなので、お二人のお話がより多くの現職教師や教員志望学生、そして教育行政の関係者に共有されることを祈っております。

◎子どもを真ん中に置く方針について、学びました。

◎公務員という立場で勤務している以上、今のシステムを変えることは難しいことだとは思いますが、教師の主体や個が発揮できる現場の環境づくりは急務だと感じます。地域の期待や学校の伝統を継承しも、時代に合わせた教育や教員のスタイルを変容させていくことは、決して悪いことではないと思います。それが実現できていた学校や年度があったことは確かなので、働きやすい環境づくりに取り組んでいきたいです。素直に、フィンランドの働き方はうらやましいと感じます。自分自身の主体や個がもっと発揮できる環境で勤務出来たら、同じシステムの中でも生き生きと生活できる気がします。公務員という枠組みの中で、自分を発揮する、どちらも諦めない教師でありたいです。

◎日本とフィンランドの教員の働き方の違いに驚きました。全てを日本の教育に取り入れることは難しいかもしれませんが、教師がチームで支え合うことや対話を大切にすることはすぐにでも取り入れられるので、日本の教師が少しでも働きやすい環境になるようミドルリーダーとしてできることを考えていきたいと思いました。また、池田町のように子どもを中心に、すべての大人が連携できるような温かい環境づくりの大切さを感じました。子どもが自分の学びを自分で作っていかれるような支援をしていきたいです。また、子どもだけでなく、大人が自分らしく生きるモデルとなれるよう、自分自身の生活も大切にしていきたいと思いました。

◎フィンランドの価値観として、先生も含め、人は一人一人違うというところから出発しているという話が印象的でした。だからこそフィンランドでは対話や雑談が重要視されるし、一人一人の得意分野を生かすことができるのだなと思いました。子ども基本法が制定されることも本日参加しなければ知らないことであつたので、いい機会をいただきました。

◎子どもが幸せになるためには、大人が幸せになることが必要だと感じました。学校でも大学でも書類など含めてどんどん義務的に作成するものが増えていて、それが互いを苦しめているように思います。サーバント・リーダーシップという言葉が印象的でした。管理を減らし、サポートする教育行政がこれからもっと必要ではと感じました

4. 南信州サテライトキャンパスの利用

信州大学教職大学院南信州サテライトキャンパス

令和4年（2022年）3月に信州大学センター（NITS：独立行政法人教職員支援機構・地域センター）事業の南信地域の拠点として南信州サテライトキャンパス（飯田市立飯田東中学校内空き教室利用）を開設し、同年4月から運営をスタートさせました。このサテライトキャンパス演習室は、教職大学院の授業を遠隔で受講できる部屋になると同時に、南信州エリアを中心とする現職教員対象の研修内容の高度化を具体的に研究開発していく拠点にしていくことを目指しています。

4-1 意義 キーワード【地理的負担軽減・南信拠点・研究拠点・連携拠点】

- (1) 広い長野県の中で、院生（教職基盤形成コース・高度教職開発コース）の通学や教員の実習訪問等における**移動距離の地理的ハンデキャップを軽減**する。
- (2) 地域ごとの教育の伝統・慣習を理解しながら、最新の教育事情に対応できる**高度な教員研修を提供する南信拠点**となる。
- (3) DX改革、GIGAスクールの進展に伴い場所を問わずに学習できる環境を考える**研究拠点**となり、**発達障がいや不登校問題に新たな教育の選択肢を提案**する。
- (4) リニア中央新幹線開通後の交通網再編の中で、**国際化が期待される飯田市における教育プロジェクトの連携拠点**となる。

※サテライトキャンパス開校記念フォーラム(R4.3.13)での資料から



4-2 信州大学教職大学院南信州サテライトキャンパスの環境

南信州サテライトキャンパスの演習室（下図写真）は、学びの多様性を視野に入れたレイアウトと環境に配慮し、個別の学びと協働的な学びが同時に実現できるような学習空間を整えています。多様な学びを演出できるオープンな空間で、未来の学び（未来の教室）を語り合ったり、教師が自ら課題を持ち込んで能動的に学んだりする拠点として活用してください。

(1) 施設の概要

- ・飯田東中学校の空き教室を活用し、演習室と教員研究室を設置［管理棟2階］
- ・Wi-Fi、電子黒板、プロジェクター、カメラ、大型スクリーン等完備：オンライン対応

(2) コンセプト

☛教師のウェルビーイング・パラダイムシフト

- ・北欧風、リラックス&ラーニング、クリエイション&コラボレーション
- ・つながる［集まる場、発信する場、情報共有の場、学校像を語る場、活動拠点等］



4-3 R4 年度事業の実績報告

南信州サテライトキャンパスの役割は2つです。公立学校と教育委員会に勤務する現職院生（下伊那2人、上伊那1人、木曽郡1人）の通学に関する負担軽減を図る院生の研究活動の場（役割A）であることと、主として、県市町村教育委員会をはじめ他の研修機関との連携による地域貢献型の研修の場であることです（役割B）。



役割A：教職大学院南信州サテライト

- ① 木曜日夕方に開催される「チーム演習」会場
- ② 休日の集中講義（共通科目）の遠隔会場
- ③ 南信地域の院生同士の学び合いの場
- ④ 南信地域に住む学生の研究指導会場

役割B：教職員支援機構信州大学センター

- ① 長野県教育委員会との連携講座の会場
- ② 信州大学センター独自の研修事業の会場
- ③ 飯田市をはじめ南信の教育委員会の支援
- ④ 南信地域の学校の校内研修のサポート

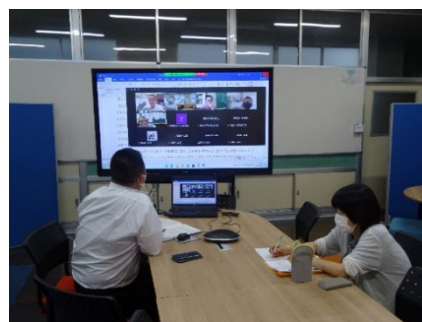
[役割A]

- (1) チーム演習 1 A：8回、チーム演習 2 A：10回（松本地区と Zoom 会議）
- (2) 院生対面意見交換（演習室）と公開授業（追手町・七久保小、喬木中）：5回

[役割B]

- (3) 研修名「へき地・小規模校の教育実践
～個別最適化を実現する授業づくり～」 50人
- (4) 研修名「教室の中での異文化理解
～違いを認め尊重しあう社会を目指して～」 15人
- (5) 教育会、校長会、研究会（同好会）、飯田東中学校
区等の自主的な研修のサポート

※演習室を定例の研修会場として利用した団体（2団体）



4-4 利用状況

令和4年度の来室者数は年間延べ人数で611人（181組）でした（右図参照）。その内、院生利用は延べ96人で来室者全体の15.7%でした。

年度当初は開設初年度ということで、飯田市教育委員会定例会や飯田市議会社会文教委員会、下伊那校長会等の視察がありました。特長的な地域貢献型の研修の場としては、以下のような利用事例が見られました。



- ・下伊那算数・数学教育研究会が毎月1～2回利用し、オンラインで山間地小規模校の若い先生方と研修
- ・下伊那校長会人材育成委員会が講師研修の場（対面・オンライン）として利用
- ・上郷小学校のランドデザイン作成グループが令和5年度案を作成する協議の場として利用
- ・全郡教科等研究まとめの会(S44スタート)の講演発信の場として利用（下伊那教育会：約650人視聴）

4-5 令和5年度の主な事業計画

南信州サテライトキャンパスをフル活用して、学校現場・教員主体の学びの場づくりにも一層注力し、個々のニーズに寄り添った教員研修を試行実践し、その成果を発信していきます。

No.	事業（講座）名	実施内容・方法
1	へき地・小規模校の教育実践 8月8日（火）	☒ 講義「少人数の条件を生かす教育実践」 ☒ 演習「少人数だからこそその授業を創る」
2	教室の中での異文化理解 8月9日（水）	☒ 講義・演習「外国籍児童生徒教育の視点から」 ☒ 講義・演習「英語教育の視点から」
3	校内研修コンサルティング 開設時間内4月～3月	・校内研修や地域の自主的な勉強会の運営等に関して、課題解決の手助けや最新の情報提供などのコンサルティングを担当します。

通常開設時間は13:00～17:00（相談可）

【連絡先】信州大学教職大学院南信州サテライトキャンパス

✉ nits@shinshu-u.ac.jp

☎ : 0265-48-6013（直通）

☎ : 0265-48-6019

5. おわりに

コロナ禍における制限もあったが、対面での演習とオンラインでの講義等を使い分け、受講者の側の事情に歩み寄った講座の運営に努力したこともあって、全体的にすべての講座で好評を得た。なかでも、特筆すべきは、コミュニティ・スクール地域コーディネーター養成講座は、それぞれ地域のコーディネーターでもあるメイン講師の伴氏と前川氏を中心に運営が進められたことが素晴らしい。講師自らが現場の課題に向き合い、受講生のために何をどのように準備し、どのように実施すべきかを講師同士が話し合っただけで講座が開催された事実は大きい。講師の皆様は心より感謝申し上げたい。

令和4年度は、信州大学センター開設以来、中心になって事業を運営してきた伏木がサバティカルでフィンランド国立教育研究所に在外研究に出ていたことに加え、令和3年度から研究員として本センター事業に従事してきた中田が本年度8月よりスウェーデンに研究出張することになったことで、事業計画通りの運営ができるか当初は多少懸念されていた。しかし、結果的にはアルバイト雇用で事務補佐を担った土屋が事務作業を引き継ぎ、教職大学院の山浦特任教授が南信州サテライトキャンパスにおける業務を一手に引き受け、副センター長を務めた笠原准教授が伏木の留守を代行して、問題なく令和4年度事業が実施された。

地域センター事業としてはNITS本部と3年契約の2年目という位置づけであったが、これまで2年間の事業の成果を生かし、課題として抽出できた点を解決する方向で信州大学センター事業の一部見直しを行い、令和5年度の事業を充実させていきたい。

なお、NITSのオンデマンド動画コンテンツ等を有効活用するなど、本部との連携をさらに深めつつも、地域のニーズを踏まえた信州大学センターならではの事業の拡充を図っていきたい。